

スペインのご紹介

(滝澤建治会長記)

先にイギリス剣道の紹介をさせていただきましたが、スペインも厚木と長いお付き合いが続いています。

故滝澤光三範士が、全剣連の剣道視察団の一員としヨーロッパ各国を訪問した数年後、スペインから二人の日本人青年が厚木の思斉館にやって来ました。今から32年前のことです。一人はバルセロナの昼間良さんで、神奈川の高校では倉沢照彦先生に剣道を教えてもらった初段です。もう一人は岡山出身の米須和夫さんで2級でした。

思斉館に見えた理由は、「スペイン人に剣道を教えてくれと頼まれて始めたが、どう教えたら良いか分からない。教え方を教えてほしい。」とのこと。少年部の稽古法を勉強してスペインに帰りました。

その翌年、「今のままでは指導に限界があるから、スペインまで指導に来てほしい。でもお金が無いから、滞在中の食事代しか出せませんが・・・」との申し出があり、滝澤範士から「お金はかかるけれど、君達の良い経験になるから行ってきなさい。」と勧められ、私が団長、現在副会長の竹村さん、学校の先生だった井上さん、NHKのアナウンサーの古川さんの4人で出発しました。

今年で日本の空から引退したジャンボジェットは、まだ就航して数年目、そのころの性能では一気にヨーロッパまで飛ぶことは出来ず、アラスカのアンカレジまで7時間、それから北極の上を飛んでオランダのアムステルダムまで9時間、そしてマドリッドまで3時間、疲れ切って到着したのを覚えています。

マドリッドでは稽古会、バスクのビトリアの警察学校で講習会、バルセロナで稽古会、マンレッサ



では一日の午前が講習会、午後はオールスペイン大会でした。大会で印象に残っているのは、剣道着や袴が無いからシャツとズボン、防具も手作り（例えば、胴の厚さは5cmもあって凄い重さ）の人が沢山いました。腕っ節の強い大男の試合は、丸太で叩き合いをしている感じで、みんな体中をアザだらけにしていました。あまりに凄い剣道で、指導には苦労がありましたが、頂いた食事の美味しかったのは未だに忘れていません（写真は講習会の様子）。

これがご縁となり、私は今までに25回ほどの訪問を重ね、スペイン各地で講習会と稽古会をしています。そして毎年多くのスペイン剣士が厚木に来て稽古をし、帰国してから習ったことを後輩たちに伝えてくれています。

あの大会から30年。大会に出ていた人から7段が二人出ています。6段5段の高位者も大勢出て、今では指導者としてスペイン剣道人口1,000人を支えています。

スペインを訪問すると今でも昼間さんと稽古をし、米須さんは剣道から離れてレストラン「武蔵」を運営されていますので、毎回訪問して思い出話に花を咲かせています。お二人はスペイン剣道の生みの親といって良いでしょう。

2005年にスペインチームはスイスで行われたヨーロッパ剣道大会で、昼間良さん（今は6段）の教え子達が大活躍、優勝候補のフランスを破って優勝しました。その時の報告の電話の嬉しかったことは忘れません。一か月後、監督のペドロ・ソレイ氏（奥さんと一緒に今回厚木に見えます）から、「自分が受け取った優勝メダルはお世話になった思齊館にあるのがふさわしい。」と額に入れて送られてきました。今、道場に飾られています（下の写真）。

